

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 楽々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県庄内町余目字四ツ興野123番地		
自己評価作成日	令和 2年 7月 21日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2年 8月 18日	評価結果決定日	令和 2年 8月 28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は玄関や各ユニットのスタッフルームに掲示し、職員全員が念頭に置き、それに基づき日々の業務やケアを行っている。また、月1度のスタッフ会議をにて、理念やケア等の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治体にも施設の存在が浸透し、地域の文化祭に参加したり、施設の行事に参加して頂いたり、日頃の挨拶や会話等を行い交流している。散歩や外出等で地域に出掛けた際も交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや認知症サポーター養成講座に参加し、寸劇や質疑応答等で理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の割合で運営推進会議を実施し、利用者様や事業所の現状、行事やサービス内容に関して報告を行ったり、地域の方や行政、ご家族様と情報・意見交換を行っている。会議での意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて連絡や相談を行う他、必要時は電話や窓口にて相談、報告を行い、協力を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	拘束防止委員会があり、身体拘束に関する研修会や勉強会を実施して学んだり意見交換を行い、全職員が知識を身につけ拘束について理解している。日中は見守りを強化し、施錠せずに対応しており、職員同士声を掛け合い、工夫しながら身体拘束の無いケアへの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束防止委員会にて、虐待についてのアンケートを年2回実施し、自分自身や他職員の言動、行動が虐待にあたらないか、ストレスがたまっていないかを把握し、虐待防止に努めている。また、スタッフ会議にて勉強会を行ったり、日々のケアで職員同士が声を掛け合い、利用者様に対する声掛けや対応策を話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修に参加し、復命書にて回覧したり、スタッフ会議にて伝達講習を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭により説明を行い、了解を得ている。不安や疑問がある時は、納得いただくまで話し合いや説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声掛けを行い、要望等はないか聞き取りを行っている。要望等あれば検討し、実施できるように努めている。また、意見箱を設置し、意見や要望を受け付けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やスタッフ会議にて、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の勤務状況等を把握し、相談や意見を聞きながら、働きやすい環境や勤務体制づくりをしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修員会が開催する内部研修や、職員の実績に見合った外部研修に参加する機会を設けて、スキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や勉強会等に参加した際に情報交換を行い、ケアやサービス向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安に思っている事、要望等を傾聴し、安心して頂けるように説明を行っている。また、利用者様一人ひとりに担当職員を設け、利用者様との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や施設見学の際に、不安に思っている事や要望等にしっかりと耳を傾け、不安を解消できるように努め、安心して利用できるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活の様子や習慣等の聞き取りを行い、本人やご家族様の希望を把握し、現時点で必要なサービスを見極め、話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は自身で行って頂き、利用者様一人ひとりに応じた作業を一緒に行ったり、役割を持つ事で生活を共にする関係を築いている。また、困っている利用者様がいたら、他利用者様も職員と一緒に手を差し伸べてくれるような関係もできている。また、楽しみを共有する時間も設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族様の絆や思いを大切にし、協力して頂きながら共に本人を支えていく関係を築いている。また、ご家族様から施設の行事に参加して頂いたり、時々自宅に帰宅する機会を設け、ご家族様との関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人行きつけの美容室等へ外出し、関係が途切れないように支援している。ドライブや散歩で自宅近くやなじみの場所、風景を見れるように支援している。また、面会にて知人、友人等馴染みの方との関係を途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で利用者様同士が交流できるよう支援している。また、利用者様同士の関係に配慮しながら、コミュニケーションをとりやすいようテーブルや自席の配置を検討したり、孤立しないよう職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に、ご家族様から病院や次の入所先への相談があった際も、親身になり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様の思いや意向を伺い、ケアプランに反映し、本人本位の暮らしやケアが出来るよう職員がチームとなり、希望に添えるよう努めている。また、日々の会話や訴えからも思い等を汲み取り、把握できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、可能な限り本人から聞き取りを行い、ご家族様やケアマネージャー等からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人のできる事、有する力等、現状の把握に努めている。また、1日に少なくとも午前と午後の2度はバイタル測定を行い、会話等からもその日の心身の状態を把握し、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人らしく生活する為に、本人とご家族様、必要関係者や専門職員等と意見交換や話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。また、毎月ユニット会議にて、必要なケアについて話し合い、これからのケアに反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の気付きや工夫した事、ケアの実践内容とその結果、本人の状態等を、個人の介護記録への記入や、連絡ノートを用いて、職員間で情報を共有し、見直しや次のプラン作成へ活かしている。</p>		
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人のニーズを把握し、暮らしで活用できるものを利用できるよう支援している。ホールには、地域の図書館で貸し出された本が、いつでも読めるように配置されている。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人の心身の状態を把握し、受診や往診が必要な時は都度かかりつけ医と連携し、安心して生活ができるよう健康管理を行っている。また、毎月1回、協力医療機関の往診を受け、その際、情報を提供する等、連携している。急変時は適切な対応が取れるよう、体制がとられている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気になることや気付いた点はその都度施設看護師に相談、助言を頂き、必要時は協力医療機関の往診や訪問看護に来て頂き、利用者様の異変や体調不良等に対応している。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様、ご家族様が安心して療養できるよう、病院関係者と情報交換等や面談を行い、状態を把握し、連携しながら、スムーズな退院支援を行い、帰設後の適切なケアに活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、看取りに対する意向の聞き取りを行い、定期的にご意向に変化がないか確認している。状態の変化があれば、早い段階から終末期ケアについて、どのように行っていくのかを話し合い、医師や看護師を含めたチームで支援に取り組んでいる。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルが整備されており、救命救急講習会や研修会に参加し、実践力と知識を身につけ、いざという時に対応できるようにしている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速に適切な対応が取れるよう、利用者様と共に年に2回避難訓練を実施し、消防隊員に確認して頂いたり、連絡網の通報訓練も行っている。また、地域の方との協力体制も築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や人権、プライドを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、日々一人ひとりに合わせた適切な声掛けや会話を行っている。また、尊厳を持って丁寧な対応をするよう配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や衣類等、利用者様が自己決定したり選択肢を設け、思いや希望を表せるよう環境作りや声掛けを行っている。自己主張できない方に関しては、会話や行動から思い等を汲み取れるよう支援し、職員間で情報共有を行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分、思いに配慮しながら、本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を心掛けている。起床や就寝時間、入浴日の変更等行い、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか本人の希望に添って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のこだわりや好みを尊重しながら、清潔感を心掛け、季節に応じた衣類などのアドバイスを行っている。また、行事の際、化粧をしたり、おしゃれを楽しめるよう支援している。毎日化粧されている利用者様や、月1回の出張利用にて、散髪だけでなく、パーマや毛染めを行う利用者様もいる。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会で嗜好調査を行ったり、バイキング式の食事を取り入れ、好きな物を選んで、食事が楽しめるよう支援している。また、季節のメニューや食材、行事食を提供し、利用者様に喜んで頂けるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ユニット会議等で検討しながら、一人ひとりの状態に応じて食事量や食事形態を変更している。食事量水分量、栄養バランスが1日を通じて必要摂取量を確保できるようチェックしている。また、摂取量の少ない利用者様には水分補給ゼリー、栄養補助食品を提供したり、嚥下障害のある利用者様にはとろみ剤を使用している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っている。自力でできない利用者様には声掛けをしたり、介助にて行っている。歯ブラシだけではなく、スポンジやガーゼ等も使用している。必要に応じて、歯科の定期往診を受けている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握している。日中は可能な限り自立支援に基づいて、トイレでの排泄を促している。尿意等がない利用者様に関しては、定時や状態(ソワソワしていたり、表情や動作で判断している)に合わせてトイレ誘導を行っている。また、パットの種類の検討や個々に合った声掛けをし、尊厳を守る排泄への取り組みを心掛けている。トイレでの排泄が続けられるよう、下肢筋力の低下防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個人の排泄パターンを把握し、主治医や施設看護師と相談し、排便コントロールがスムーズにできるように支援している。また、運動を行い、牛乳やヨーグルト等の乳製品、フルーツ等をメニューに取り入れたり、水分を多めに摂るようにして予防に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は声掛けをし、本人の希望に添って入浴日やお湯の温度、湯船に入っている時間等を変更して対応し、ゆっくりと楽しんで安全に入浴できるように対応している、		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせた起床時間、就寝時間にて、個別に対応している。一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じ、居室やソファにて寛いだり、休息がとれるよう環境を整えている。夜間は、休みやすい照明や室温に調整している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法や副作用等について、職員把握しており、服薬後の症状の変化の確認に努めている。また、誤薬や飲み忘れがないか、職員間でトリプルチェックを行い、臨時薬は連絡ノートや申し送り周知し、確実に服用できるようにしている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中や活動の場、個人の力に応じて家事手伝い等、出来る事や得意な事の役割を見つけ、散歩やドライブ、慰問等で気分転換を図っている。また、趣味やお好きな事を把握して、余暇やレクリエーションで意欲を持ち、楽しんで活動できるよう支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月バスレクを企画して普段行けない場所へ行って楽しみ、天気の良い日は散歩やドライブ等外出したり、ウッドデッキにて日光浴を行い、外の空気にふれる機会を設けている。また、本人の希望に添えるよう、ご家族様と相談し自宅へ帰られたり、美容室へ出掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にご家族様が管理しているが、本人の希望や管理能力に応じて、おこずかいを持っている利用者様もあり、行事等で出かけた際に職員が支援しながら買い物を楽しまれている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人、知人等から電話があったり、本人の希望により電話をかけている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度をチェックして適温に調整し、こまめに換気を行い、快適で心地良い空間づくりを心掛けている。花を生けたり、壁には毎月季節に合わせた装飾を飾って、温かで家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう支援している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の行き来を自由に行い、仲の良い利用者様の所へ遊びに行ったり、気の合う方とソファで寛いだり談笑したり、一人でゆったりしたり、好きなよう過ごせるよう配慮している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の写真や本人が作成した作品を掲示したり、好きな本を持ってきたり、その人らしく安心して落ちついて過ごしやすい居室になるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を的確に把握し、補助具等を使用している。トイレや浴室等は字やイラストで分かりやすい表示をし、手すりも備え付けられ、安全に過ごして頂けるよう配慮している。また、個人の力を活かして、出来る限り自立して自分らしい生活が送れるよう工夫している。		